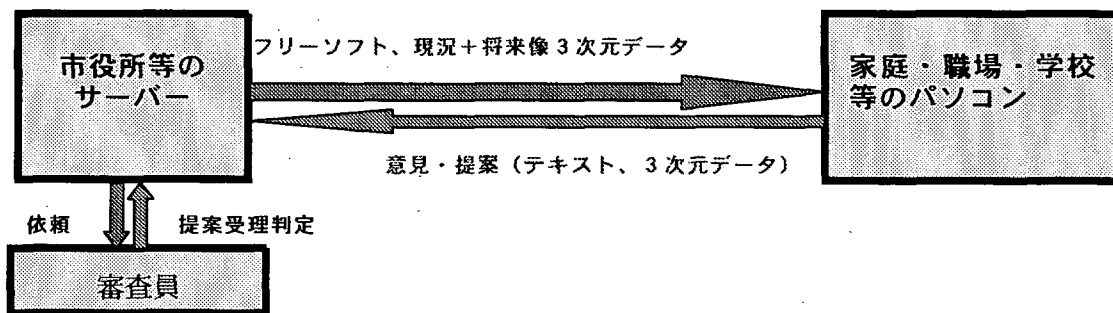


システムの概要と、本書の構成

まちづくり・コミュニケーション・システムは、旧建設省土木研究所・建築研究所において開発した景観シミュレーション・システムを、クリエイタによる3次元データ構築、及びWEBブラウザと組み合わせて一般市民が計画内容を閲覧するためのブラウザとして活用しつつ、平成13年度に国土技術政策総合研究所・高度情報化研究センターの研究課題「仮想現実とネットワークを用いたまちづくりのためのコミュニケーション・システムの開発」において新たに開発した、ネットワークによる3次元データの公開・受け付けを可能にするサーバー機能の中に組み込んだWEBベースの全体システムとして構築したものです。

景観シミュレータに関しては、最新のOS環境に適合させると共に、ネットワーク機能、立体視等の機能を追加した上で、ダウンロード・インストールを簡便化し、まちづくりのための3次元データを構築し、最終的にWEBコンテンツとして組み込む作業を容易化しました。これに加えて、ゼロベースから開発したサーバー機能においては、3次元データを含むWEBコンテンツを公開する機能（事業別のWEBサイトを構築するためのツールや雛形ページ）、一般市民のためのビューワ、データ作成のためのクリエイターズ・キット等のシステムのダウンロード・サービス、まちづくりに関する一般市民等からの意見を受け付ける機能、受け付けた意見（文章、画像、3次元データ）を審査の上、掲示板に公開する機能などをゼロベースで開発しました。

同年度には、この研究開発の成果を受けて、同時並行で本省都市計画課の調査業務として、市街地再開発、土地区画整理事業、連続立体交差事業等のまちづくりに関する15の事業に適用し、これを用いて変化するまちの将来の姿について3次元データを構築し、一般市民等とのコミュニケーション（事業の情報開示と、市民からの意見の収集）に利用されました。全体システムは、下図に示したようなダイアグラムで動作します。



本書は、上記課題の中で新たに開発した機能を中心に、公開された3次元データを閲覧しようとする市民等における使用方法（I）、公開する3次元を構築しようとするクリエイタ等における使用方法（II）、及びサーバーを運用し、3次元データを含む各種事業関連情報を公開し意見を収集しようとする事業主体における構築方法（III）、ステレオ表示を行う方法（IV）に分けて解説しました。また、景観シミュレーション・システムの実務マニュアルが品切れとなったため、基本となっている景観シミュレーション・システムの各種基

本機能についても、改良部分を増補改訂の上、整理して掲載しています（V、VI）。

利用にあたっては、最初から通読することには余り意味がありません。目的に応じてI～IV章のいずれかを通読して頂き、特にデータ構築などに際して景観シミュレータの機能の詳細を知る必要が生じた場合等に、V以下の関連する項目を参照して下さい。

本システムに係る最新情報については、引き続き下記サイトより公開しております。

<http://sim.nilim.go.jp/MCS>

平成15年8月27日

高度情報化研究センター 住宅情報システム研究官

小林 英之

本書中で用いている、Windows(95, 98, Me, NT, 2000, XP), インターネット・エクスプローラ、メディア・プレーヤー、ペイント、メモ帳(一般名詞として用いられる防備録ではなく、パソコン・ソフトを指す場合)、VBScript、エクスプローラ、インターネット・サービス・マネージャ等は、マイクロソフト社の登録商標です。PhotoShop は、アドビ社の登録商標です。CNVART は、North Coast Software Inc. の登録商標です。IRIS, Indy, Indigo2, Onyx は、Silicon Graphics 社の登録商標です。OpenGL は、OpenGL ARB(Architecture Review Board)がマシン及びOSに依存しないグラフィックスインターフェースの標準として提案しライセンスを発行している仕様です。AutoCAD は、AutoDesk 社の登録商標です。MiniCAD は、その後 VectorWorks に名称変更された、Nemetschek North America 社の登録商標です。本文中で、特に一般名称との区別の必要がない限り、個別の注記は省略しています。